

3. 各区のあらまし

【中 央 区】 シンボルマーク(昭和 50 年 4 月制定)



地域資源(藻岩山)を活用したイベント

〈位置と広さ〉

市の中心部に位置し、北区、東区とはＪＲ函館本線で、白石区、豊平区とは豊平川で、南区、西区とは南西部山地の稜線で接している。面積は 46.42 平方キロメートルで、東西に 15.3 キロメートル、南北に 9.8 キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

中央区は、札幌の中心として計画的なまちづくりが進められ、現在では、大通や札幌駅前通に面して官庁や企業の近代的なビルが立ち並ぶ一方、国の天然記念物である円山原始林をはじめ藻岩山、豊平川など豊かな自然にも恵まれ、都市と自然が調和した環境を形成している。

時計台や札幌市資料館（旧札幌控訴院庁舎）などの歴史的な建造物が多く残り、札幌コンサートホール Kitara、札幌市民交流プラザ、札幌オリンピックミュージアムなどの文化・スポーツ施設や、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）、札幌市北 3 条広場（アカプラ）などが整備されており、魅力ある都市空間を形成している。

区では、「地域がつながり安心・安全に暮らせるまちづくり」「地域活動の活性化」「サービスアップの推進」を目標に、様々な事業を行っている。

これまで、地域資源を活用した「アタック・ザ・531M（藻岩山ファミリー登山）」やデジタルマップ等で地域の魅力を紹介する「まちの魅力再発見事業」のほか、地域住民や地元企業などとのアダプトプログラムによる「環境美化活動」開催など、地域の多様な団体、資源・特色を生かしたまちづくりを進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

中央区役所ホームページ「市電のふるさと中央区」<https://www.city.sapporo.jp/chuo/>

【北 区】 シンボルマーク (昭和 52 年 3 月制定)



創成川通のポプラ並木

〈位置と広さ〉

市の北部に位置し、区の東は創成川、旧篠路村境界で東区と、西は新川を挟み、西区及び手稲区と、南はＪＲ函館本線を境として中央区と、北は発寒川、茨戸川及び石狩川を隔てて石狩市、当別町と接する。面積は 63.57 平方キロメートルで、東西に 14.2 キロメートル、南北に 13.7 キロメートルの広がりをもつ。

〈地勢と現況〉

地形は平たんで山がなく、地質・地盤は鉄西地区などの一部を除き、粘土質の土地や泥炭からなり軟弱である。水辺に恵まれた北区には、大小多くの河川が流れており、特に創成川、伏籠川、発寒川の 3 河川が合流する茨戸の水郷景観は、他に見られない素晴らしいものとなっている。昭和 20 年代までは、旧札幌市街である鉄西、幌北地区などが市街化していたが、昭和 30 年代に入り、札幌市の人口の急速な増加と並行して新琴似、屯田、篠路地区などの農業、酪農地帯の市街化が進み、その後、屯田、篠路、あいの里などの地域で宅地化が進展したことなどにより、人口も約 28 万人と 10 区の中で最も多くなっている。

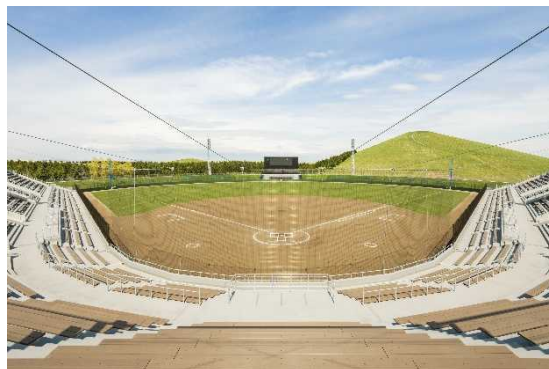
また、札幌駅北口周辺では、昭和 63 年に完成した鉄道高架事業をきっかけに再開発事業が進展し、札幌第一合同庁舎や札幌エルプラザなどをはじめとするビルが建ち並び、オフィス街を形成している。加えて、広大なキャンパスを持つ北海道大学のほか、北海道教育大学など多くの高等教育機関が存在し、文教地区としても発展している。

そのような環境を生かし、北区では、学生や地域住民と連携した各種まちづくり活動をはじめ、高齢者等が安心して暮らせるよう、地域連携による見守り支え合い活動の推進や、健康寿命延伸を目指した健康づくりなどを地域住民と協働で行っている。また、「北区歴史と文化の八十八選」や「農村歌舞伎」のＰＲ等、地域の特色ある歴史や文化を生かした取組や、隣接市町との交流による活力あるまちづくりを進めている。

〈ホームページ・アドレス〉

北区役所ホームページ「みてきて北区」<https://www.city.sapporo.jp/kitaku/>

【東 区】 シンボルマーク(昭和 52 年 7 月制定)



令和 7 年 4 月にリニューアルオープンした
「モエレ沼公園野球場」

〈位置と広さ〉

市の北東部に位置し、区の南は J R 函館本線を境に中央区と、西及び北はそれぞれ創成川、旧篠路村境界で北区と、東は白石区、江別市及び当別町と接している。面積は 56.97 平方キロメートル、東西 9.3 キロメートル、南北 11.0 キロメートルに広がっている。

〈地勢と現況〉

地形は平たんで、地質は鉄東地区の一部を除き埴土及び泥炭から形成され、伏籠川やモエレ沼が古豊平川の名残りをとどめている。区の北東部には、タマネギ栽培を中心とする農地が広がり、北区に次ぐ耕地面積を有している。一方、苗穂地区に J R 苗穂工場や大規模食品工場、丘珠地区に鉄工団地などが立地しているほか、都心に隣接して古い街並みも残っている。

東区は、故イサム・ノグチ氏が設計を手掛けたモエレ沼公園、サッポロさとらんど、札幌市スポーツ交流施設（つどーむ）など、札幌を代表する大規模施設を有しており、市内外から多くの方が訪れている。

区では、「誰もが健やかに暮らせるまち」、「安全で快適な住みよいまち」、「魅力と活力にあふれた賑わいのあるまち」を実現するため、様々な取組を進めている。

主な取組としては、「ひがしくウェルネスプロジェクト」として、連合町内会をはじめ、区内の各種団体・学校・企業等と連携し、ひがしく健康・スポーツまつりや多様なウォーキングイベント、スポーツ体験会など、1 年を通して健康やスポーツに関する様々な事業を展開している。

また、地域防災力の更なる向上を目指して、多様な世代を対象とした防災普及啓発を継続して行うとともに、令和 7 年度からは、札幌市立大学との防災協定に基づき、専門的な知見も加えた取組も展開している。

さらに、東区の活性化を共に目指す「タッピーフレンズ」（企業・学校・団体等）と連携しながら、東区ならではの施設や文化等を活かした特別な体験やスタンプラリーなどのイベントの実施や、魅力スポットを紹介するウェブコンテンツの作成などの事業を通じて、東区の多彩な魅力を掘り起こして、区の内外に広く発信し、魅力と活力にあふれるまちづくりに取り組んでいる。

〈ホームページ・アドレス〉

東区役所ホームページ「ようこそ ひがしく」<https://www.city.sapporo.jp/higashi/>

【白 石 区】 シンボルマーク(昭和 52 年 8 月制定)



白石区マスコットキャラクター「しろっぴー」「くろっぴー」

〈位置と広さ〉

市の東部に位置し、北は江別市に、南は東北通を境に豊平区及び清田区と接する。また、東は厚別区、西は豊平川を境に中央区と東区に隣り合う。面積は 34.47 平方キロメートルで、東西に約 8.7 キロメートル、南北に約 8.7 キロメートルの広がりを持つ。

〈地勢と現況〉

白石区は、J R 函館本線・千歳線、地下鉄東西線、国道 12 号、道央自動車道などの東西に伸びる各種交通網が発達しており、札幌市の交通の要衝となっている。

区内には、大規模会議場や展示場機能を併せ持つ札幌コンベンションセンター、地震体験コーナーや消火体験コーナーを備えた札幌市民防災センター、産業情報の提供などを行う札幌市産業振興センター、大型イベントの会場となるアクセスサッポロ（札幌流通総合会館）、国際交流施設の J I C A 北海道（札幌）や札幌国際交流館（リフレサッポロ）、道内の物資の集散地である大規模な流通センターなど札幌市を代表する施設がある。また、都市生活に憩いや潤いをもたらす場として、白石こころード(旧白石サイクリングロード)や川下公園などがあり、四季を通じて多くの人々に愛され、利用されている。

住民のコミュニティ活動では、白石区ふるさと会をはじめとする地域の団体や企業が、文化振興、青少年健全育成、緑のまちづくり、祭りなどふれあいの場の創出、地域の防災・防犯、高齢者の見守り、さらには歴史的つながりのある宮城県白石市や北海道登別市との交流など、さまざまな活動を積極的に進めている。

区では、区民が「白石区に住んで良かった・住み続けたい」と思える魅力あるまちづくりを目指して、毎年「しろいしアクション」を策定しており、「安全・安心で快適に暮らせるまち」「地域のチカラ、魅力の向上」「区民のための区役所」の 3 つを運営目標として掲げ、さまざまな事業を行っている。

〈ホームページ・アドレス〉

白石区役所ホームページ「おもしろいしWEB」<https://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>

【厚 別 区】 シンボルマーク (平成 2 年 2 月制定)



ふれあい広場あつべつで行われる
恒例の「厚別区民まつり」

〈位置と広さ〉

市の東部に位置し、北東は江別市と、南東は北広島市と接する。また、南は清田区と、西は厚別川、一部三里川を区境に白石区と隣り合う。南北 9.9 キロメートル、東西 5.0 キロメートルの広がりをもつが、面積は 24.38 平方キロメートルと 10 区の中で最小である。

〈地勢と現況〉

地形は J R 函館本線を境に、北の平野部、南の丘陵部に大きく分かれ、丘陵部は厚別川、野津幌川、三里川、小野津幌川が流れ、全体にゆるやかな起伏となっている。

昭和 30 年代の大規模な団地建設、昭和 47 年の厚別副都心開発基本計画に基づく都市空間の創出などにより、農業地帯だった街並みは大きく変ぼうした。現在の厚別区は、J R 新札幌駅、地下鉄新さっぽろ駅付近を中心とした商業地区と周辺の住宅地からなるが、野幌森林公園など豊かな自然環境にも恵まれている。

区内には、情報産業が集積する「札幌テクノパーク」や大型社会教育施設の「札幌市青少年科学館」・「サンピアザ水族館」・「北海道開拓の村」、道内唯一の第 1 種公認陸上競技場であり、また北海道コンサドーレ札幌のホームゲームも行われる「厚別公園競技場」がある。

区では、地域課題の解決などに取り組む「あつべつ区民協議会」への支援をはじめ、多くの人がまちづくりに関心を持ち、積極的に参加できるよう、区民を主役としたまちづくり活動を推進している。さらに、大規模複合開発が完了した新さっぽろ駅周辺地区では、ふれあい広場あつべつを活用したイベントの誘致を進めるほか、「厚別区民まつり」をはじめとするイベントの開催支援など、地域交流の拠点として「新さっぽろ駅周辺のにぎわいづくり」に取り組み、厚別区全体の活性化につなげている。

〈ホームページ・アドレス〉

厚別区ホームページ <https://www.city.sapporo.jp/atsubetsu/>